

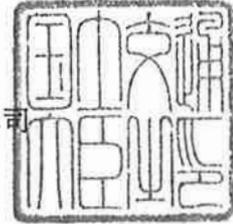


# 認定書

国住指第 3032 号  
平成 21 年 12 月 4 日

旭化成建材株式会社  
代表取締役社長 小林 宏史 様

国土交通大臣 前原 誠司



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第八号及び同法施行令第 108 条第二号（外壁（非耐力壁）：30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
PC030NE-0121
2. 認定をした構造方法等の名称  
樹脂塗装鋼板・フェノールフォーム・せっこうボード表張／軽量鉄骨下地外壁
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名  
樹脂塗装鋼板・フェノールフォーム・せっこうボード表張／軽量鉄骨下地外壁

2. 寸法および形状等

(寸法単位：mm)

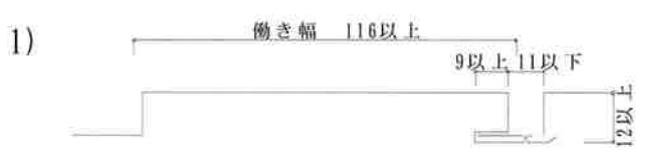
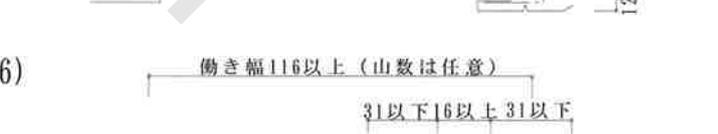
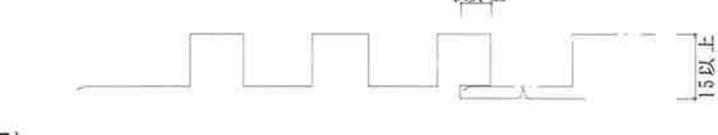
項 目	申 請 構 造
壁 高	構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法とする
壁 厚	144.5以上

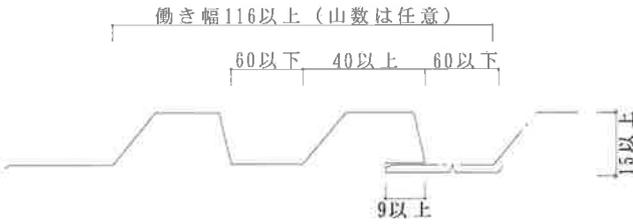
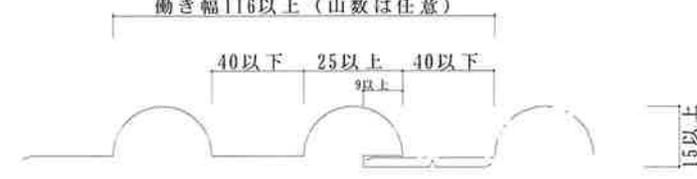
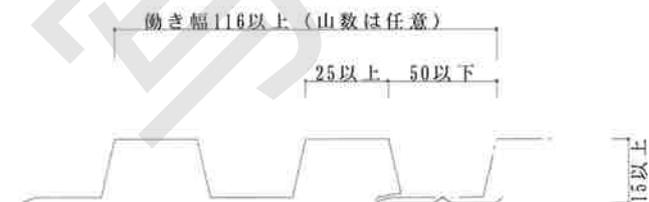
3. 材料構成

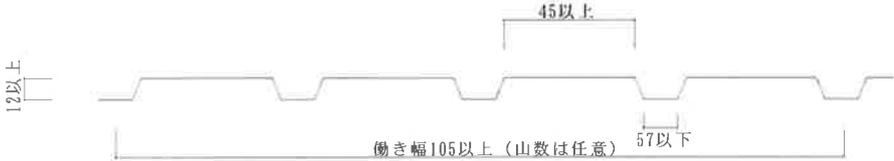
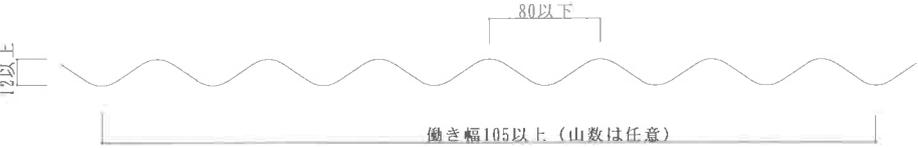
- 1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
①胴縁	一般構造用軽量形鋼 [1] 一般部 ・規 格 JIS G 3350 ・寸 法 □-100×50×20×2.3 の断面寸法以上 ・間 隔 910 以下 [2] 下地材目地部 ・規 格 JIS G 3350 ・寸 法 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) □-100×50×20×2.3 の断面寸法以上を2本使用 (2) □-100×100×2.3 の断面寸法以上 ・間 隔 910 以下

項 目	申 請 構 造
②外装材	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 金属板 (スパンドレル)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・厚 さ 0.4 以上</li><li>・働 き 幅 105 以上</li><li>・長 さ 12000 以下</li><li>・山 高 さ 12 以上</li><li>・形 状 1)～13)のうち、いずれか一仕様とする</li></ul> <p>1) </p> <p>2) </p> <p>3) </p> <p>4) </p> <p>5) </p> <p>6) </p> <p>7) </p> <p>8) </p>

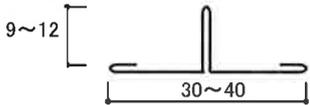
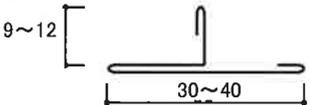
項 目	申 請 構 造
②外装材(つづき)	<p>9) </p> <p>10) </p> <p>11) </p> <p>12) </p> <p>13) </p> <p>・材 質 1)～8)のうち、いずれか一仕様とする  1) 塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (NM-8697)  ・規 格 JIS G 3322  ・塗 装 1)～f)のうち、いずれか一仕様とする  イ) ポリエステル系樹脂  ロ) アクリル系樹脂  ハ) シリコン系樹脂  ニ) アミノ・アルキド系樹脂  ホ) 塩化ビニル系樹脂  ヘ) フッ素系樹脂  ト) エポキシ系樹脂  チ) ウレタン系樹脂  ・塗 布 量 65g/m<sup>2</sup> (有機質量) 以下</p>

項 目	申 請 構 造
②外装材(つづき)	<p>2) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 (NM-8697)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3312</li> <li>・塗 装 1)に同じ</li> <li>・塗布量 1)に同じ</li> </ul> <p>3) 溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3321</li> <li>・塗 装 なし</li> </ul> <p>4) 溶融亜鉛めっき鋼板</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3302</li> <li>・塗 装 なし</li> </ul> <p>5) 塩化ビニル樹脂フィルム張/金属板 (NM-8674~8696) (金属板は鋼板に限る)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS K 6744</li> <li>・表面材 塩化ビニルフィルム</li> <li>・膜厚さ 0.1以下</li> </ul> <p>6) 高耐候性圧延鋼材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 3125</li> <li>・塗 装 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> <li>1) エポキシ系樹脂</li> <li>2) ウレタン系樹脂</li> </ul> </li> <li>・塗 布 量 65g/m<sup>2</sup>(有機質量)以下</li> </ul> <p>7) 両面ポリエステル樹脂系塗装/溶融アルミニウムめっき鋼板 (NM-1863)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塗 装 ポリエステル系樹脂</li> <li>・塗 布 量 10.25g/m<sup>2</sup>(有機質量)以下</li> </ul> <p>8) フェライト系ステンレス鋼板</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS G 4304、4305</li> <li>・塗 装 なし</li> </ul> <p>(2) 金属板 (スパンドレルでなく留付けビスが露出するもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚 さ 0.4以上</li> <li>・働 き 幅 105以上</li> <li>・長 さ 12000以下</li> <li>・山 高 さ 12以上</li> <li>・形 状 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする</li> </ul> <p>1)</p>  <p>2)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・材 質 (1) 金属板(スパンドレル)と同じ</li> </ul>

項 目	申 請 構 造
③断熱材	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)フェノールフォーム保温板</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS A 9511 (A種、1種2号)</li> <li>・形 状 平板</li> <li>・厚 さ 20<sub>-1</sub>~66<sub>+6</sub></li> <li>・密 度 27<sub>-3</sub>kg/m<sup>3</sup>以上 (芯材)</li> <li>・組 成 (質量%) <ul style="list-style-type: none"> <li>{ フェノール系樹脂 (ビニール系樹脂) 94~98</li> <li>{ 発泡剤 (炭化水素) 2~ 6</li> </ul> </li> <li>・表 面 材 (両面) <ol style="list-style-type: none"> <li>1)~5)のうち、いずれか一仕様とする</li> <li>1) ポリエステル系不織布 <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用量 片面あたり 20~60g/m<sup>2</sup></li> </ul> </li> <li>2) ポリプロピレン系不織布 <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用量 片面あたり 20~60g/m<sup>2</sup></li> </ul> </li> <li>3) ポリエチレン加工紙 <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS Z 1514</li> <li>・使用量 片面あたり 20~60g/m<sup>2</sup></li> </ul> </li> <li>4) はり合せアルミニウムはく <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS Z 1520</li> </ul> </li> <li>5) 無機系の加工紙 (けい酸マグネシウム紙、ガラス繊維紙、アルミニウムはく・ガラス繊維複合紙)</li> </ol> </li> <li>・酸素指数 28以上 (芯材)</li> </ul> <p>(2) フェノールフォーム充てん/両面ポリエステル不織布裏張・エポキシ系樹脂塗装アルミニウムはく (NM-0315)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形 状 平板</li> <li>・厚 さ 20<sub>-1</sub>~66<sub>+6</sub></li> <li>・表 面 材 (両面) <ul style="list-style-type: none"> <li>ポリエステル不織布裏張・エポキシ系樹脂塗装アルミニウムはく <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚さ 0.25<sub>-0.05</sub>~0.42<sub>+0.05</sub></li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・接 着 剤 1)~5)のうち、いずれか一仕様とする <ol style="list-style-type: none"> <li>1) エポキシ系樹脂 質量 80~100g/m<sup>2</sup></li> <li>2) 酢酸ビニル系樹脂 質量 60~80g/m<sup>2</sup></li> <li>3) ゴム系 質量 60~80g/m<sup>2</sup></li> <li>4) アクリル系樹脂 質量 30~50g/m<sup>2</sup></li> <li>5) エチレン系樹脂 質量 20~40g/m<sup>2</sup></li> </ol> </li> <li>・芯 材 フェノールフォーム (フェノール樹脂 100%発泡体) <ul style="list-style-type: none"> <li>・かさ比重 0.027<sub>±0.003</sub></li> <li>・組 成 (質量%) <ul style="list-style-type: none"> <li>{ フェノール系樹脂 (ビニール系樹脂) 94~98</li> <li>{ 発泡剤 (炭化水素) 2~ 6</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
④下地材	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) せっこうボード (GB-R)</p> <p>(2) 強化せっこうボード (GB-F)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規 格 JIS A 6901</li> <li>・厚 さ 12.5以上</li> <li>・端部形状 1)~3)のうち、いずれか一仕様とする <ol style="list-style-type: none"> <li>1) スクエア</li> <li>2) ベベル</li> <li>3) テーパ</li> </ol> </li> </ul>

## 2) 副構成材料

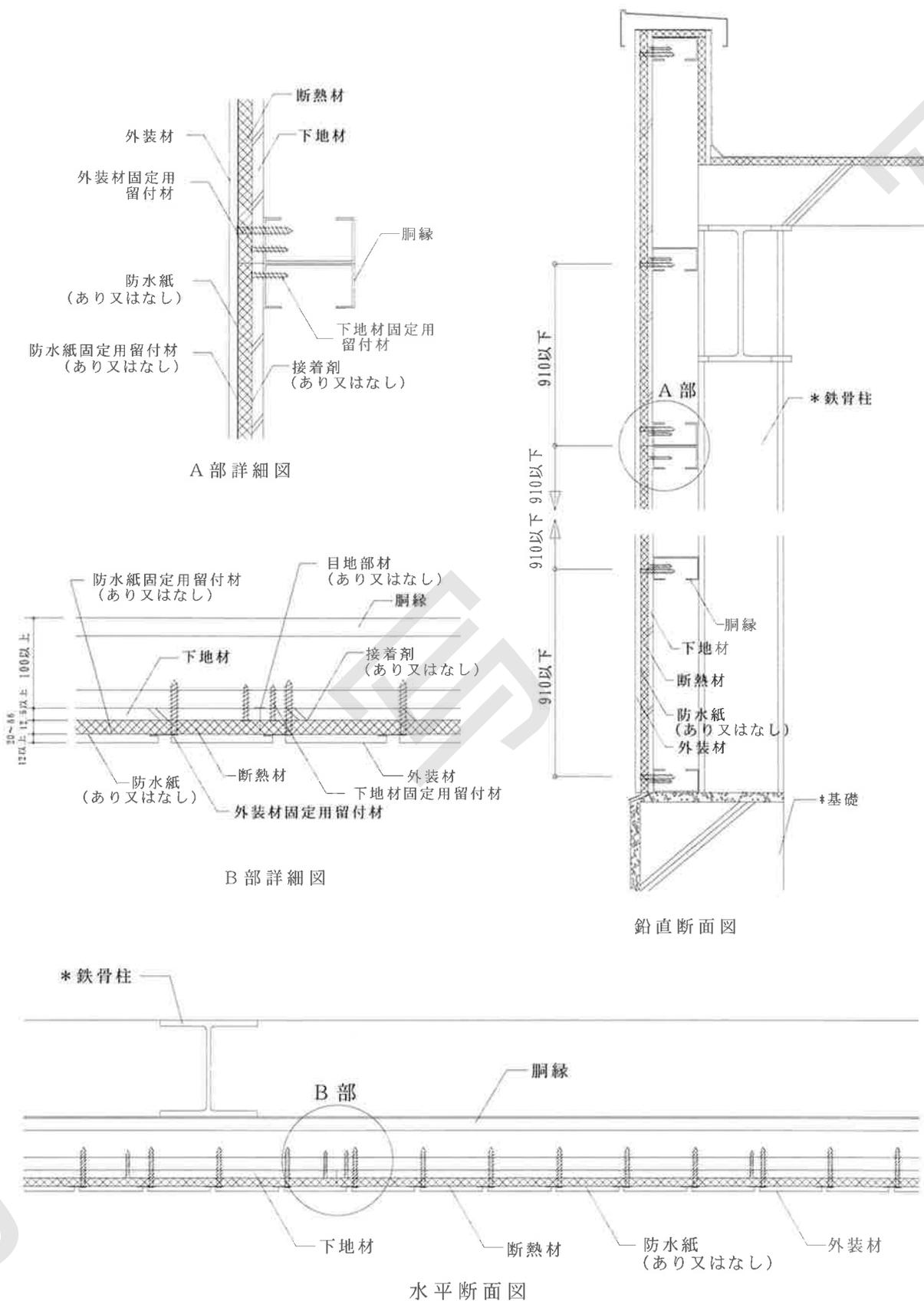
(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
①防水紙	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) アスファルトフェルト ・規 格 JIS A 6005 ・単位重量面積の呼び 430 以下 (2) 透湿防水シート ・規 格 JIS A 6111 ・単位重量面積の呼び 100 以下 ・材 質 1)～3)のうち、いずれか一仕様とする 1) ポリエチレン 2) ポリエステル 3) ポリプロピレン (3) なし
②目地部材	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする(縦目地部のみ) (1) あり ・形 状 T型 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする  <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;"> <p>1)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>2)</p>  </div> </div> ・材 質 鋼板 ・厚 さ 0.27～0.35 (2) なし
③接着剤 (下地材、 断熱材複合用)	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1) 酢酸ビニル系樹脂 ・塗 布 量 165g/m <sup>2</sup> (有機質量)以下 (2) ウレタン系樹脂 ・塗 布 量 165g/m <sup>2</sup> (有機質量)以下 (3) エポキシ系樹脂 ・塗 布 量 165g/m <sup>2</sup> (有機質量)以下 (4) アクリル系両面テープ ・基 材 ポリエチレン ・粘 着 剤 アクリル系樹脂 ・厚 さ 0.2 以下 ・使 用 量 粘着剤 150g/m <sup>2</sup> (有機質量)以下

項 目	申 請 構 造
④留付材	<p>[1] 外装材固定用</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) ドリルねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材 質           <ol style="list-style-type: none"> <li>1)、2)のうち、いずれか一仕様とする</li> <li>1) 炭素鋼</li> <li>2) ステンレス鋼</li> </ol> </li> <li>・寸 法 <math>\phi 5</math> 以上×L40 以上</li> <li>・間 隔 (高さ方向) 910 以下、(幅方向) 910 以下</li> </ul> <p>(2) タッピンねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材 質           <ol style="list-style-type: none"> <li>1)、2)のうち、いずれか一仕様とする</li> <li>1) 炭素鋼</li> <li>2) ステンレス鋼</li> </ol> </li> <li>・寸 法 <math>\phi 5</math> 以上×L40 以上</li> <li>・間 隔 (高さ方向) 910 以下、(幅方向) 910 以下</li> </ul> <p>[2] 下地材固定用</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) ドリルねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材 質           <ol style="list-style-type: none"> <li>1)、2)のうち、いずれか一仕様とする</li> <li>1) 炭素鋼</li> <li>2) ステンレス鋼</li> </ol> </li> <li>・寸 法 <math>\phi 3.5</math> 以上×L20 以上</li> <li>・間 隔 (高さ方向) 910 以下、(幅方向) 455 以下</li> </ul> <p>(2) タッピンねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材 質           <ol style="list-style-type: none"> <li>1)、2)のうち、いずれか一仕様とする</li> <li>1) 炭素鋼</li> <li>2) ステンレス鋼</li> </ol> </li> <li>・寸 法 <math>\phi 3.5</math> 以上×L20 以上</li> <li>・間 隔 (高さ方向) 910 以下、(幅方向) 455 以下</li> </ul> <p>[3] 防水紙固定用</p> <p>(1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) アクリル系両面テープ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基 材 ポリエチレン</li> <li>・幅 100 (2本使用)</li> <li>・厚 さ 0.2 以下</li> <li>・粘 着 剤 アクリル系樹脂</li> <li>・使 用 量 粘着剤 230g/m<sup>2</sup> (有機質量) 以下</li> </ul> <p>(2) 合成ゴム系接着剤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塗 布 量 165g/m<sup>2</sup> (有機質量) 以下</li> </ul> <p>(3) ウレタン系接着剤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塗 布 量 165g/m<sup>2</sup> (有機質量) 以下</li> </ul> <p>(4) 変成シリコン系接着剤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塗 布 量 165g/m<sup>2</sup> (有機質量) 以下</li> </ul> <p>(5) なし</p>

#### 4. 構造説明図

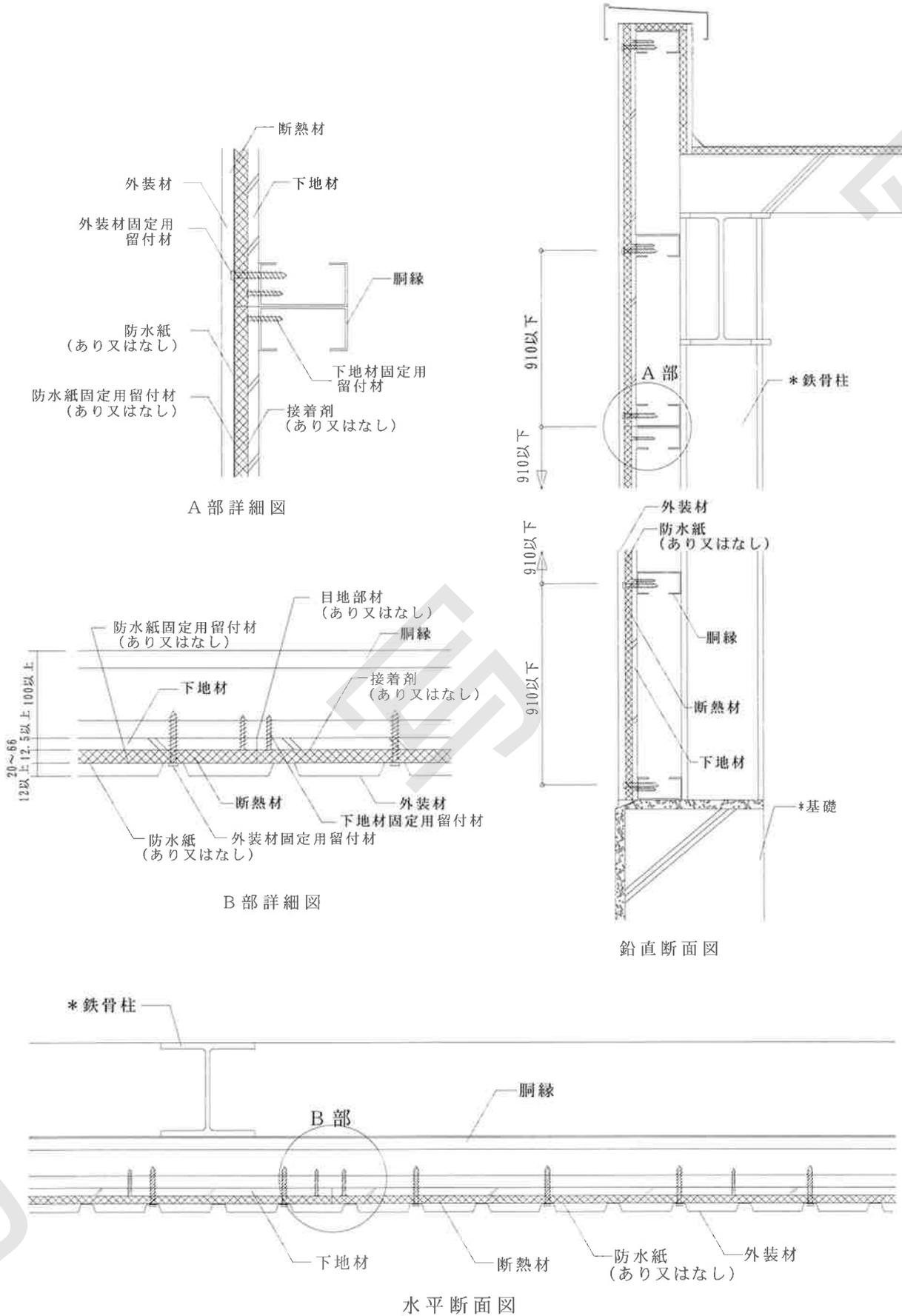
##### 1) 金属板（スパンドレル）



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり。

\* : 本評価内容に含まない。

2) 金属板 (スパンドレルでなく留付けビスが露出するもの)



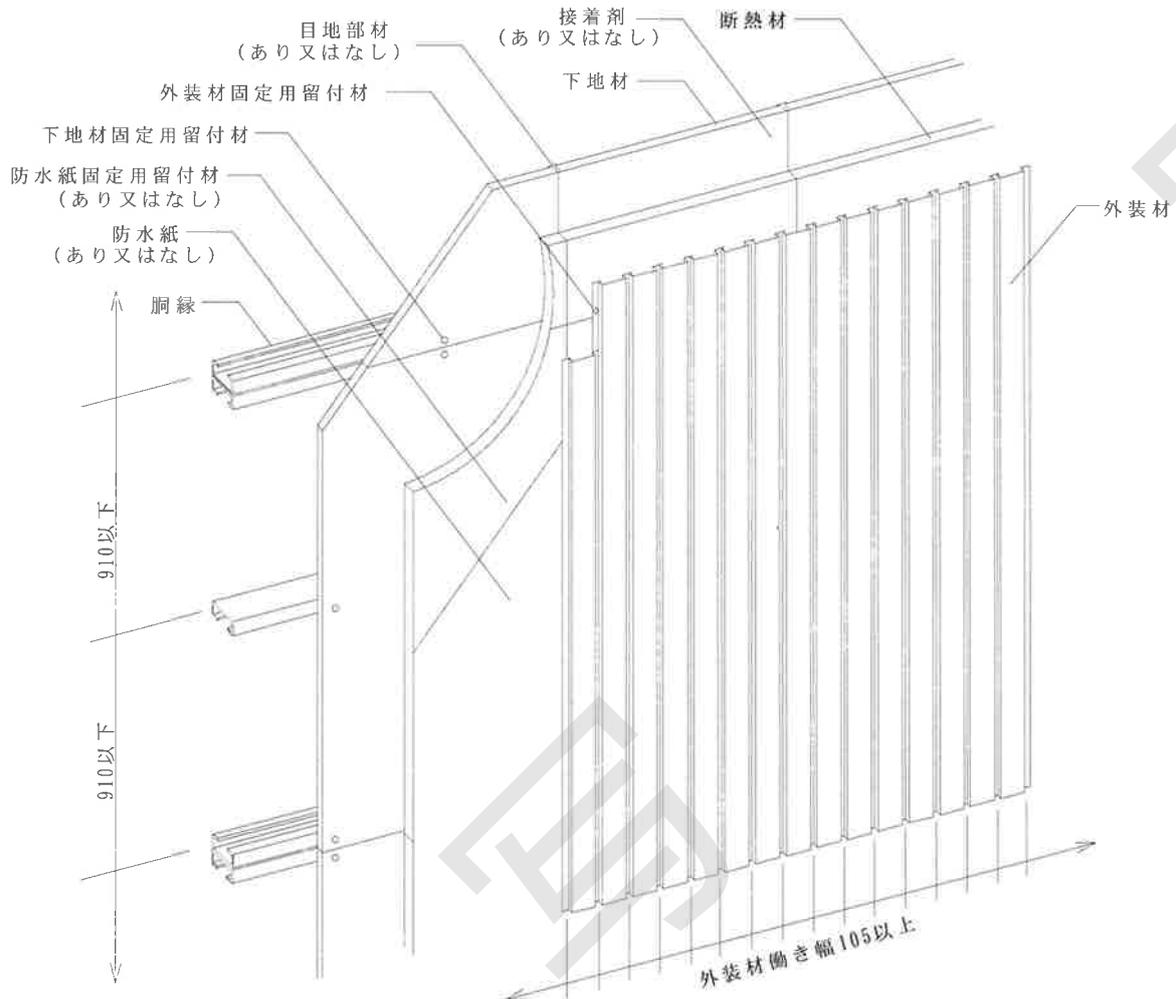
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

\* : 本評価内容に含まない。

## 5. 施工方法等

### 1) 金属板（スパンドレル）

#### <施工図>



注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

#### <施工手順>

##### ①下地組

- ・柱に胴縁を取付ける。このときの相互間隔は 910mm 以下とする。

##### ②下地材の取付け

- ・下地材（または下地材と断熱材の複合板）は、 $\phi 3.5\text{mm}$  以上 $\times L20\text{mm}$  以上の下地材固定用留付材を用いて胴縁材に留付ける。留付間隔は、高さ方向 910 以下、幅方向 455 以下とする。

##### ③断熱材の取付け

- ・断熱材は、その相互に隙間が生じないように下地材に固定する。

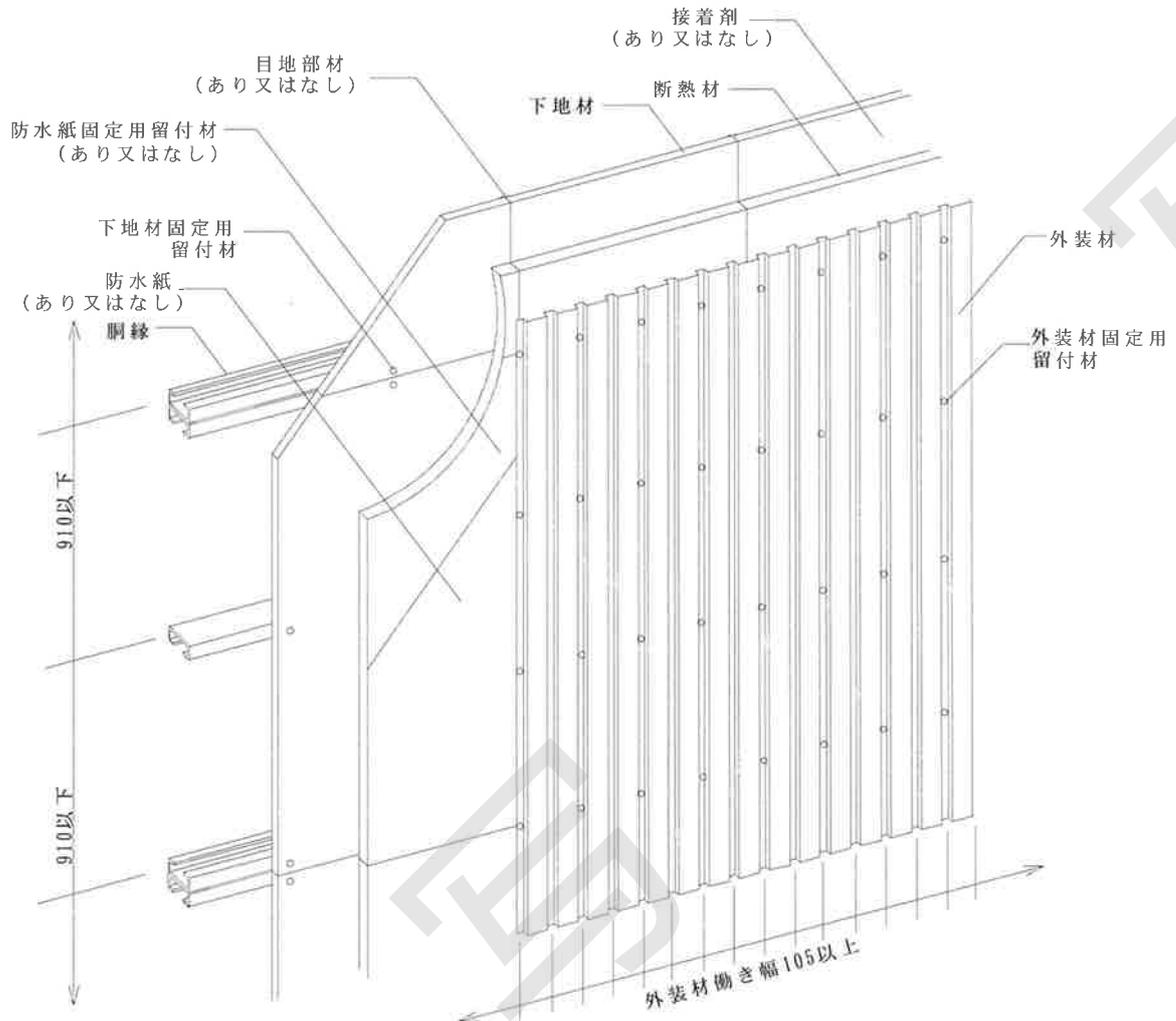
##### ④防水紙の取付け

- ・防水紙を施工する場合は、テープまたは接着剤を用いて断熱材に固定する。

##### ⑤外装材の取付け

- ・外装材は、 $\phi 5\text{mm}$  以上 $\times$ 長さ 40mm 以上の外装材固定用留付材を用いて胴縁に留付ける。
- ・外装材固定用留付材の留付けは、高さ方向は間隔 910mm 以下とし、幅方向は外装材の働き幅毎とする。

2) 金属板（スパンドレルでなく留付けビスが露出するもの）  
＜施工図＞



注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

＜施工手順＞

- ①下地組
  - ・柱に胴縁を取付ける。このときの相互間隔は 910mm 以下とする。
- ②下地材の取付け
  - ・下地材（または下地材と断熱材の複合板）は、 $\phi 3.5\text{mm}$  以上 $\times L20\text{mm}$  以上の下地材固定用留付材を用いて胴縁材に留付ける。
- ③断熱材の取付け
  - ・断熱材は、その相互に隙間が生じないように下地材に固定する。
- ④防水紙の取付け
  - ・防水紙を施工する場合は、テープまたは接着剤を用いて断熱材に固定する。
- ⑤外装材の取付け
  - ・外装材は、 $\phi 5\text{mm}$  以上 $\times L40\text{mm}$  以上の外装材固定用留付材を用いて胴縁に留付ける。
  - ・外装材固定用留付材の留付けは、高さ方向は間隔 910mm 以下とし、幅方向は外装材の働き幅あたり 3 本以上とする。